

1 学校教育目標
人間性豊かな実践力のある生徒の育成

総合的な教育目標を、より具体的な児童生徒や教師、学校の「姿」としてイメージする

2 学校経営ビジョン
輝く！北中生 - 元気で、「自律」した生徒の育成を目指して -
<めざす学校像> 学ぶ意欲を育てる学校 豊かな心と体を鍛える学校 落ち着きのある学校 地域に開かれた学校
<めざす生徒像> 地を鍛える生徒 言葉を鍛える生徒 服装を鍛える生徒
<めざす教師像> 心身共に健康で明るい教師 生徒と共に活動できる教師 信頼される教師

このうち、特に今年度力を入れるものを取り込む。校の込みに当たって、特に、前年度、「何ができて、何ができなかったか」を参考にする

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>輝く北中生 基本的な生活習慣の確立 生命の尊重と豊かな心の育成 基礎・基本の充実と自ら学ぶ意欲の開発 家庭・地域との連携推進 指導力の向上</p>	<p><成果> 学校運営、教育活動の2領域の各項目について、概ね目標は達成できた。校内サーバー活用によるセキュリティ強化により、教職員の危機管理意識が高まった。また、授業力向上のために、生徒に教師の授業を評価させることで、生徒側から立って指導方法を工夫改善することができた。 <課題> 開かれた学校づくり及び家庭と連携した学習習慣の確立のために、PTA活動の活性化と学校からの情報発信の工夫、生徒指導の充実に向けた保護者・関係機関・学校を効率よく連携させるための工夫</p>

取り込んだ重点目標の成果や課題を具体的に評価するためには、どのような項目や指標を盛り込むべきかを考える

5 総括表	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学 校 運 営	学校経営方針	学校教育目標・学校経営ビジョン・重点目標の周知 特色ある学校づくり	・教職員、生徒、保護者、地域への周知を図る。教職員への周知率100%、生徒・保護者への周知率80%の徹底。		・学校掲示等を工夫し、生徒への周知を図る。 ・学校行事など保護者来校の機会や「たより」を通じて周知を図る。 ・ホームページを積極的に更新し、学校教育の理解を図る。また、学校配信メールでリアルタイムに学校情報を連絡する。	
	教職員の資質向上	校内研修や自己研修の推進 服務規律の徹底	・校内研究会の月1回の開催。 ・教育センター等の研修会や研究発表会へ最低1回以上は参加する。 ・服務規律に関する校内研修会を2回開催する。		・校内研修の充実を通じ、教師力の向上を図る。 ・各種会議の冒頭に服務についての講話を充実する。	
	危機管理体制の整備	危機管理体制の整備 安全教育の推進	・職員、生徒の危機管理に対する意識を高める。 ・不審者侵入に対する取組の推進。 ・登下校のヘルメット着用率100%をめざす。		・危機管理マニュアル、防火・防災計画や訓練等を通して、職員の意識の高揚を図る。 ・校内・外の安全点検の月1回の実施。 ・不審者対策訓練の実施。 ・避難訓練の年間3回実施。防犯教室、交通安全教室・薬物乱用防止教室の実施。 ・緊急配信メールを活用する。	
	開かれた学校づくり	家庭・地域との連携、学校教育活動の周知と地域との連携の推進	・PTA活動の活性化。 ・学年・学級懇談会や個人面談等を年間3回以上実施する。 ・地域の学校への要望・意見等を把握し、早い対応をする。 ・学校開放デーを年2回実施する。		・PTA組織の見直しと各委員会間の横の連携充実。 ・ホームページの定期的更新の実施と学校配信メールによる保護者への周知の徹底。 ・事前調査等で面談の充実を図る。特に、夏季休業中に3年三者面談、2・1年二者面談を実施する。 ・学校開放デーを地域に広報する。 ・緊急配信メールを利用して学校情報を連絡する。	
教 育 活 動	学力向上	確かな学力の定着を図る学習指導	・学習状況調査において県平均を上回る。 ・家庭学習の習慣化。		・教科部会及び研究部会で指導方法の工夫・改善に対する実践的な研究を行う。 ・学力向上のための授業研究会とその検証(分析検討委員会)を行う。 ・1人1指導の充実。 ・学習環境の整備。 ・自主学習の手引きの活用と保護者への啓発。	
	心の教育	道徳の時間の充実 ふれあい道徳の実施 体験活動の実施	・年間35時間を確実に確保し、道徳の時間の充実を図る。 ・体験活動の充実を図る。 ・人権・向和教育の充実を図る。 ・ボランティア活動の推進する。		・学年部会で道徳担当による計画の推進と共通実践を行う。 ・道徳の授業参観を学校開放デーに開催し、同時に「生命」「人とのつながり」の教育講演会を実施し、生徒・保護者への啓発を推進する。 ・教育活動全領域において、生徒の自尊感情を高めていく指導を行う。 ・人権・向和教育の年間計画の作成と計画的な指導実践。 ・生徒会活動として「元気100日運動」を中心に奉仕の心を育てる。 ・生徒指導と連携して、生徒の実態や状況に応じて指導を行う。	
	健康・体力づくり	年間を通して健康体力の向上に努める	・年間を通、皆の健康を保持増進させる(GOの生徒数を10%以上減少させる)。 ・食育を通して健康な体づくりを図り、朝食摂取率95%以上を目指す。 ・学校体育・運動部活動を通して「心・技・体」のバランスを図る。		・検診結果の家庭連絡と学校歯科医との連携を図り、歯磨きを徹底させる。 ・学校で歯磨き指導を実施する。 ・給食指導の充実と食育の授業に取り組む。 ・学校体育における体力の向上とともに心の育成を図る指導を推進する。 ・部活動数の精選と充実(部活動の意義を周知する)。 ・全職員による継続的な部活動の指導。	
	生徒指導の充実	きめ細やかな生徒指導の推進と特別支援教育の充実	・不登校及び不登校傾向にある生徒数を減らす。 ・生徒指導に関する情報の共有化を通して、生徒理解・共通実践の徹底を図る。 ・学習障害や発達面の課題をもつ生徒への指導体制の充実を図る。		・関係諸機関やSCとの連携を密にし、また家庭との連携を密にして「登校の意義」について保護者の理解を図る。 ・対象生徒の状況報告と実現可能な支援策を選択して、支援会議を実施する。 ・生徒指導委員会及び生徒指導協議会の定例化により、職員の共通理解・協働体制を図る。 ・関係諸機関や他校との連携強化を図る。 ・個別の教育支援計画に基づいた個別の指導計画を作成し、共通実践を進める。	

評価結果を踏まえて、「何ができて、何ができなかったのか」を考える
特に、C、D評価はもとより、A、B評価も、「評価項目として適切だったのか、は均等の余地がある

6 総合評価

できなかった点について、次年度以降の目標策を検討する
できなかった点に自己より、改善策を見出せるのが重要である

7 来年度の改善策